

JICA-CM4TIP 通信

No.23/2017.6.8

- 被害者と行政を繋ぐ架け橋：第2回 VOT-MDT フォーラム開催
- 第2回 JCC 開催
- 反人身取引デーにタイ首相と対面
- タイ・ラオ国境地域の県レベルの協力
 - 百生チーフ離任の挨拶
 - 佐藤専門家着任の挨拶

タイ・メコン地域人身取引被害者支援能力向上プロジェクト

- ◇ タイおよびメコン地域において人身取引被害者に対する支援対策が効果的に行われるために、JICA では被害者保護・自立支援に関わる多分野協働チーム (MDT) の能力強化と、支援能力向上に協力してきました。
- ◇ 当プロジェクトは 2015 年 4 月から 4 年間の予定で、人身取引被害者の生活再建支援のため、ケースマネージャー (CM) 等の能力向上や被害者のエンパワメント、周辺国との協働を目指す活動を実施します。

CM4TIP : Case Management for Trafficking in Persons の意味。
詳細は HP (<http://www.jica.go.jp/project/thailand/016/index.html>) をご覧ください。

被害者と行政を繋ぐ架け橋： 第2回 VOT-MDT フォーラム開催

本プロジェクトでは、被害者中心主義を基に人身取引被害者 (VOT) の心に寄り添ったサポートを行政とともに実現していこう、という目標を掲げています。そのため、直接被害者の声を聴き、その声を行政に繋げていく活動をしています。被害者と MDT(多分野協働チーム)とが、現状認識と課題への認識を共有するための第2回 VOT-MDT フォーラムを5月18日に開催しました。



3件の海外で被害に遭ったタイ人被害者の訴訟ケースについて発表し、会場に質問を投げる LOL メンバー

VOT/ MDT フォーラム

人身取引被害者自身が立ち上げたピアサポートグループ (LOL: Live Our Lives) を通じて、直接被害者の声を聴き、被害者と MDT(多分野協働チーム)が、現状認識と課題への認識を共有するためフォーラムの二回目が5月18日に実現しました。

参加者は、社会開発人間の安全保障省(MSDHS)の人身取引対策部(DATIP)部長をはじめスタッフ、MDTメンバーである検察官、弁護士、警察官、入管警察、司法省、労働省、NGOのスタッフ、日本大使館書記官、JICAスタッフと LOLの代表他4人の被害者、約60人でした。

初めに、LOLの代表より、これまでの活動内容および、タイの人身取引被害者の3件の訴訟ケースについて発表がありました。その後、その訴訟を支援してきた LOL から MDTメンバーに向けて7問の具体的な質問がなされました。



質問に答える人身取引警察官

質問内容としては、例えば、海外で被害に遭い、人身取引被害者と認定された被害者には、被害者救済基金

(TIP Fund) に申請し、救済支援を受ける権利があります。しかし、帰国直後は精神的にも肉体的にも疲れ、目先の生活のことを考えるだけでも精いっぱい、制度を利用するために必要な手続きをするにまで至らない場合があります。そんな時、被害者が帰国した後、どのぐらいの期間内に申請手続きを行わなければ、自分の被害者としての権利を行使することができなくなるのか？また、訴訟に勝ち、人身取引加害者に有罪判決が下された後でも、加害者が逮捕されず、村で悠々自適に暮らしているのを目撃した時、被害者はどうしたらよいのか？であるとか、加害者に有罪判決が下され、被害者に対して賠償責任が求められているのに、加害者自身が破産状態で損害賠償金が支払えない場合、かつ加害者から裁判所に保釈金などが支払われた場合、裁



対象各県や中央のMDTメンバー約60名が参加

判所に支払われたお金のうち一部を被害者に支払うことができないか？というようなものでした。

このような具体的な質問に対して、活発な意見交換が行われましたが、被害者の疑問に直接答えを提示できたか、という点で疑問が残りました。しかし、このフォーラムが持つ意義は大きく、被害者が直接疑問を提示し、行政の人間と話すことができる貴重な機会を提供している、という点では評価できると思います。定期的に被害者の声を聴き、彼女・彼らの声に寄り添った支援を目指していく、ということは今後も続けたいと思っています。

プロジェクト運営会議第2回 JCC 開催

プロジェクトの運営を監督し、立案時に設定した目標を確実に達成するための年間活動計画を承認する JCC (Joint Coordination Committee) というプロジェクト運営会議の第二回会合が開催され、過去2年間の活動報告を DATIP スワリー部長が行い、百生チーフがこれまでの成果の達成度の説明と今年度の年間活動計画を提案し承認されました。



プラユット首相にプロジェクトの紹介をする松野文香チーフ



アドゥル MSDHS 大臣 プラユット首相
ラティロンさん 松野チーフ

反人身取引デーに タイ首相と対面

6月5日の反人身取引の日（2008年反人身取引法の施行日）に首相府で行われたイベントにて、当プロジェクトも出展しプラユット首相に松野チーフアドバイザーがプロジェクトを紹介しました。

国境地域の県レベルの協力

タイのウボンラチャタニ県とラオスのチャンパサック県は国境で接し、チョンメック・ワンタオというチェックポイントを通じて、ラオスからの労働者が数多くタイに入国してくる、人の流れを考える上で要の二県です。2010年の人身取引対策に関する覚書(MoU)を結び、CM4TIPは両県をプロジェクト対象地域として2015年から活動を始めました。それ以降約半年ごとに一回のペースで、両県での活動を支援しています。2017年2月には、県同士の連携のみならず、国境地帯のチェックポイントを含む国境沿いの2郡(シリントン郡/タイ側とフォントン郡/ラオス側)の間でも、正式な覚書(MoU)に共同署名し、二国間の連携強化が更に進んでいます。今月22-23日には、タイ側にラオスのチャンパサック県の主要メンバーを招待し、第4回目となるMDT能力強化研修を開催しました。開会に当たっては、ウボンラチャタニ県の県知事が出席し、二県の更なる関係強化と、それに伴う成果への期待が高まっています。

MDT能力強化研修は早四回目だと考えると、二県間の協力内容がなかなか具体化しないことへの焦燥感もありますが、何度も顔を会わせることで人と人との距離が縮まり、そのため二県間の距離が縮

まってきたりと実感できます。今回は近々の国を挙げての反人身取引デー(6月5日)を受けて、両県、特にシリントン郡とフォントン郡二郡を中心に、国境付近最大の市場で啓発イベントを行うということで話がまとまりました。今後は、啓発活動だけに留まらず、二県間のVOTに関する情報共有、被害者認定後のスムーズな本国送還などでの協力などができるよう、具体的な活動を考え、支援していきたいと思えます。

百生チーフより離任の挨拶

5月末で任期を終え、帰国します。

JCCとMDTと被害者の対話フォーラムは、プロジェクトの中でも重要度の高いイベントで、帰任前にそれらを無事に終えることができ、安堵です。

本通信は、プロジェクトに興味をもって下さっている方々に対して分かりやすい紙面にすることを小田専門家と共に考えて書いてきました。皆様からのコメントも楽しみでした。ありがとうございました。

これからは後任の松野文香さんが引き継ぎ、今まで一緒にプロジェクトを推進してきました小田専門家は引き続きプロジェクトに携わり、6月には新しい専門家も赴任し、プロジェクトはパワーアップしていきます。

今後とも応援をお願い致します。



JCCの際にスワリ-部長から百生チーフに記念品贈呈

佐藤祥子専門家着任の挨拶

こんにちは。6月より広域協力活動促進担当の専門家として着任した佐藤祥子(さとうしょうこ)です。プロジェクトの後半期間では、人身取引対策におけるタイと近隣のメコン諸国との連携強化により一層の力を入れることとなり、専門家も増員されることになりました。

タイには1992年にシーナカリンウィロート大学に留学して以来、通算7年目、3回目の長期滞在となります。日本の警察で人身取引事件のタイ語通訳として働いていましたが、被害者の女性から想像を絶する悲惨な話を繰り返し聞くうちに、被害にあってから対応するのではなく、その原因となる貧困や格差の問題をなんとかしたいと開発の仕事を目指すようになりました。これまでは保健分野の専門家としてフィリピン、アメリカ、カンボジア、バングラデシュ、タイで人々の健康を向上させるために働いてきました。

この度、自分の原点とも言える人身取引分野の仕事をする事になり身が引き締まる思いです。どうぞよろしくお祈りします。



(左から) 小田哲郎、佐藤祥子、松野文香



ウボンラチャタニ県・チャンパサック県国境位置図
(出典: openstreetmap.org に加筆)

◇ 本通信は、プロジェクトの進捗状況や周辺情報をお知らせするためJICA 専門家の見聞をお送りしています。JICA およびカウンターパートの公式見解ではありません。なお、無断での転載はお断りしています。